

第 10 回 神保原駅北まちづくり協議会 会議録

概 要

開催日時	令和 6 年 7 月 11 日（木） 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	上里町役場 大会議室
公開又は 非公開の別	公開
出席委員 (敬称略)	為国 孝敏 並木 孝之 竹内 広幸 木村 芳雄 野村 智香子 佐々木 輝伸 大田 幸子 栗原 龍一 宮下 寛 平谷 隆行 島田 未夢 茂木 一美 上村 登
代理出席 (敬称略)	永田 光範（河原塚 啓史） 松井 康哲（平谷 隆行）
欠席委員 (敬称略)	鈴木 光雄 長沼 克 黒澤 望
出席状況	委員総数：17 名 出席：14 名 欠席：3 名
事務局	上里町 まちづくり推進課 山中課長 飯塚 課長補佐 伊藤係長 清野主事
	委託業者 株式会社アール・エフ・イー（令和 5 年度 神保原駅北ウォークブル推進等検討業務委託） 藤村 龍至
傍聴者	2 名（うち報道関係者 1 名）

会 議 の 内 容

	1.開会 （事務局から開会のあいさつ） 2.あいさつ （為国会長、島田副町長からあいさつ） 3.委嘱状の交付 （対象者欠席のため省略） 4.委員の出席状況報告 （神保原駅北まちづくり協議会設置要綱(以下「協議会設置要綱」)第 6 条第 3 項の規定に基づき、事務局から委員の過半数の出席が確認されたため、本会議は成立） 5.会議録署名委員の指名 （協議会設置要綱第 8 条第 2 項の規定に基づき、為国会長が「竹内委員」、「島田委員」の 2 名を会議録署名委員に指名） 6.報告事項 （1）ちいさな駅前を旅するマーケットについて【資料 1】 （事務局から説明）
--	--

◎質疑応答

竹内委員

出店数は29店舗で地元参加店舗が8店舗ということですが、地元参加店舗以外の出店というのは、どちらから来られているのでしょうか。

事務局

町内事業者や町外の出店者もごさいます。町外については本庄や深谷など近隣の市町から参加しています。今回は出店希望者が多くなり、全体で40店舗程度の出店申し込みがありましたが、会場等の都合もあり、抽選という形にさせていただいた結果、29店舗という形になっています。

竹内委員

ある程度お店をやっている方がそこに出店として出てきたのか、あるいは地元のボランティアのような方がお店を作って出てきたのか、どんな感じなんでしょうか。

事務局

実際、店舗を持っていच्छる方の出店や、後はご自身で例えばアクセサリなどを作っている方が、マーケット限定で出店をしています。

為国会長

他にご質問ございますか。

竹内委員

アンケート結果で年齢別の構成があるんですけども、これは来場された方がこの年齢構成ということでしょうか。

事務局

来場された方のうち、全部で144人の方がアンケートにお答えいただきまして、そちらの結果でございます。全ての方は取りきれないので、アンケートに答えていただいた方の結果となっています。

竹内委員

上里町の年齢構成と比較してみて、こういった年代の方が来場しているのか、ちょっと見えてくるかなと思ったんで、そこはちょっと難しいですね。ありがとうございます。

為国会長

50歳以下で随分とたくさんの方が来場されていますね。

竹内委員

こういったイベントはお年寄りのイメージがあるので、ちょっとびっくりしました。

為国会長

出店された方からの声は何か入っているのですか。

事務局

これまでも出店された方についてアンケートをとらせてもらっていますが、非常に好評です。やはり来場者数も多く約1,600名いらっしゃいましたので売り上げが良いことや、それ以外にも出店者同士の繋がりや地域の方等の繋がりとかそういったコミュニティにおいてお話ができて嬉しかったなどのご意見はいただいております。

為国会長

スペースがあればもう少し、先程40店舗の申し込みがあつて抽選で29店舗に絞られたという話がありました。スペースがあれば、出店数が増やせるということですね。

事務局

今後スペースの確保次第になってきますが、また増えるようであれば検討していきたいと考えております。

為国会長

こういうことを続けていくことで、これが上里町の名物になる。それが一番嬉しいですよ。私も仕掛けたことがずっとやっぱり続いていくと、ずっと続いていって大きくなっていくんですね。そうすると参加してる人たちとか、出店している人たちの中で、中身がまた変わっていつて成長するっていうかですね、そういうふうなループですね。

茂木委員

要望なんですけど、このアンケートの抜粋についてはいわゆる参加者からのアンケートというふうに認識してるんですけど、やはり出店者の方のアンケートも合わせて掲示してもらうと対応できて良いのではないかなというふうに考えますので、お願いします。

事務局

今回の資料では抜粋版でお示しさせてもらっていますが、ホームページ上では意見の抜粋版ではないものが載っております。出店者の方も、併せて載せられるようにしていきたいと思えます。ありがとうございます。

為国会長

はい、よろしいですか。それではこちらの報告は終了させていただきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。それでは二つ目の（2）まちなか再生ワークショップ・ローカル会議実施報告

	について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	（２）まちなか再生ワークショップ・ローカル会議について【資料２】 （事務局（委託業者）から説明）
	◎質疑応答
竹内委員	一番左側の方の概念図のところのコンテンツとコンテンツ・プラットフォームについて、もう少し、くだけた言い方をすると何になるのですか。
事務局 （委託業者）	ご質問ありがとうございます。ご説明が少し不足しておりまして申し訳ございません。このコンテンツ・プラットフォームというのは、例えば先程ご報告のありました旅するマーケットでお集まりいただいて、ご出店されていたような方々がここでコンテンツと呼ばせていただいている、第4層の方々が飲食の出店、例えばコーヒーとかビールとかアクセサリーとか、洋服とかいろいろ企画をお持ちの方々を、コンテンツを持ってらっしゃる方々というふうに定義させていただいてまして、そのようなマーケットをオーガナイズされる方、色々なネットワークがあって、例えばこのエリアのこういう方々と繋がりがあるこのエリアのこういう形で繋がりがあるという形でそれらをオーガナイズしてマーケットを企画される方っていうのが、第3層のコンテンツ・プラットフォームと呼ばせていただいている方々となります。このコンテンツ・プラットフォームという方々が若い世代の方々が各エリアで、たくさん立ち上がってきておられましてその方々が連携して色々なところでマーケットをされてらっしゃる。旅するマーケットではそのコンテンツ・プラットフォームの方々が協力し合ってエリアごとのコンテンツを集めていくということで、広域的にご紹介していくというふうにされていらっしゃる。最近の地域の中での新しい作り方の一つかなと考えておりますけれども、そのような意味で、この第3層4層ということで書かせていただきました。地元の皆様がサポートして管理されている土地ですとか、不動産を3層4層の方々に提供したり、あるいはその方々が町の公有地を使うことをサポートしていくと、そういったイメージで考えてございます。
竹内委員	ということは、第2層と第3層の間は基本的には繋がっていないということですか。
事務局 （委託業者）	この方々が繋がっていくことが非常に大事かと思っております。例えば住民組織の方々と町内の方々が直接何かコンテンツという形で企画をされることもあるのか、例えばエリアのお祭りで年に1回のお祭りですとか、運動会ですとか、やることはあるかと思うんですけれども、そういった特別なイベントはもちろん住民組織の方々が直接される時に、もう少し賑わいをまちなかにしっかり作っていくような定期的な集まりというのは、第3層4層のプロの方々の業としてこういうコンテンツのプラットフォームを運営されるような方々が最終的には活動されていくことになってまいりますので、コンテンツを持ってらっしゃる方を応援される方々と、住民組織の方々がしっかりとしたお付き合いをする体制が構築されることが非常に重要かと思っております。そういう意味で住民組織の皆様とプレイヤーの皆様と土地オーナーの方々と土地の管理者の皆様が一同に会して、今回の会議のメンバーが4層構造を貫いてきちんと議論していくことが必要ではないかということで、ご提案をさせていただいております。
為国会長	第3層になる人っていうのが重要なんですよね、要はプロデューサーですよ。基本的にプロデューサーであったり、仕掛け人であったり、これが住民もそうだし、皆さん方と繋いでいって、より魅力的なものを仕掛けていく。さらに上の人たちはあくまでプレイヤーですから、そういう人たちのネットワークも設けないといけない。プロデューサーとして考えた方がいいと思うんですけど、提案していただいたのは全部これ、1層から4層まで繋がっていないといけないんだよね。そういうふうに見ていただけると良いかもしれません。大体まちづくりプレイヤーはいるんだけど、プロデュースする仕掛ける人というのがどうしてもいない。今、実は各地で若い人たちなんかは、ここを興味持ってる人たくさんいるんですよ。仕掛け人みたいな。その人が、プレイヤーの人たちのネットワークを作ってそれで地域の人と交渉をやっている。その交渉事が今までできてなかったの、ここが重要になってくる場所ですよ、提案されている事は。どうですか。参加された皆さんとかも含めて、ご質問ご意見等、はい、どうぞ。
宮下委員	ちょっと質問があったんですけど、エリアマネジメントで先生がおっしゃったようにキーププレイヤーがすごく重要だと思うんですけど、エリアマネジメントですと、例えば町内町外の方で、そのような方がいらっしゃらないとなかなかエリアマネジメントって回っていかないのかなと思うんですけど、その辺の見通しが何かあるんでしょうか？

事務局
(委託業者)

ご質問ありがとうございます。おっしゃるように、第3層のなり手は非常に重要なのかなと思って
いるんですけれども、エリアプラットフォームと呼ばれるような体制っていうのが国交省さん
でも、最近地域の関係者が一同に会して専門家と一緒に協議する場みたいな定義をされています。
具体的にそれぞれの役割をもう少し整理させていただいたのがこのツールでございまして、四つ
の層に分けさせていただくんですけれども、この企画をする層というのは、使用者の中から実力
をつけてだんだんオーガナイザーになってくるパターンもあれば、住民組織の側で世代交代みたい
な形でだんだん立ち上がっていくパターンがあります。今上里町でコンテンツとオーガナイザー
の動きが非常に活発になってきているので、第3層になる方が徐々に関係者の皆さんから見えてく
る兆しというのはあるのかなというふうに考えています。今後の取り組みの中でそれらの活動を
活発化させていただきたいんですけれども、その機会として、空き地を活用したマーケットです
とか、定期的なそういった取り組みが非常に重要になってくるのかなと思ってまして、旅するマ
ーケットの中で隣の本庄市とか、いくつか先行する取り組みの刺激を受けながらだんだん上里町
の動きというのが見えてきてるのかいうところでございます。

為国会長

理想的にはこうやって参加してる方たちが第3層になってくれればいいんですけれども、そんな簡
単じゃないんで、他の自治体で私の知ってる感じで言いますとね、地域おこし協力隊を使ってい
るところが結構多いんですよ。地域おこし協力隊で何ができるのか、どういうネットワークを持
っているとか、そういう人たちが入ってチェックするので、その人たちを中心に地域の人たち、
あるいはその人が儲けるネットワークとかを使いながら、まず一つ仕掛けていく。それが大きく
なるところっていうのがあるみたいです。北海道の小さな町なんかでも、今まで過疎の町だ
ったのが、そういった動きがあって何か変だぞと思うような賑わいが出てきたといったケースも
あったりするんです。多分そういうの見てるから、地域おこし協力隊とか何かのきっかけで町が
このキーマンを募集するとか、そういうきっかけを作ってあげる等、多分地元の人だけでってや
ろうとすると私は無理だと思うんですね。そうじゃなくてもっと上里町を良くしたいって思う人
という形で広めていくと結構応募があるんじゃないかという感じではしています。

為国会長

他どうですか。はい、ありがとうございます。

栗原委員

本庄県土の栗原でございます。先程、先生のお話の中でローカル会議で線形道路設計が絞りきれ
なかったという話がございまして、いろんな要素が絡んでたのかなというふうに思っておりま
す。道路管理者といたしまして、どちらにするにしてもやっぱり地元様のご協力ご理解がないと
何もできないので、事業の方向性とかそういったものも含めて話し合っていきたいなというこ
とを考えております。これは意見です。

為国会長

ありがとうございます。はい、他はいかがでしょう。

為国会長

よろしいですかね、この後、今後のまちづくりの方向性について皆さんと議論したいと思いま
すので、これを踏まえてこれからですね、ご意見をいただけるとありがたいと思います。一応報
告事項ですから、ここで終わらせていただいて、次の方の議題の中でですね、今後のまちづく
りの方向性について事務局から説明いただいて、率直なご意見をいただければと思います。よろ
しくお願いいたします。

7.議題

(1) 今後のまちづくりの方向性について【資料3】

(事務局から説明)

◎質疑応答

栗原委員

本庄県土の栗原でございます。先程、神保原駅北未来ビジョンの構築に向けてということで、よ
り具体的な意見というのが提出されたということは理解しております。県土整備事務所としてご
意見なんですけれども、クランクについて今後、10年間でやりたいという話の中で、自分も道路を
歩きまして、ちょうど17号の近場に小学校がございまして、17号から旧中山道の区間が通学路に
なっており、非常に狭隘でございまして、歩行者、特に児童の通行が危険だということの認識は
当然しております。国の岸田首相も対策はしっかりとやりますという話がございまして、優先
順位を定めて進めたいということは考えております。その手法については先程の町さんの提案等
も含めてですね、相談していきたいなということを考えております。もう一つ先程、段階的な整
備という形の中で、駅北東通り線を先にやって未利用の土地を活用していきたいというお話がご
ざいしましたが、もしこの駅北東通り線ですね、整備がすすめられた場合、今の停車場線が非常

	に狹隘でございまして、ここのところにどうやって接続するのかというのは考えております。ここに道路ができますと非常に自動車交通の方が入ってくると思いますので、パンクしないようにこの交差点については、よく町さんと協議をしながら進めていく必要があるのかなということを考えております。よろしくお願いします。
為国会長	ありがとうございます。何かありますか。
事務局	停車場線につきましては先程、申し上げた通りかなり規模の大きい長期的な大事業になるというふうに町としては考えていて、やはり沿道に住んでいる方、地元の方が何の解消を一番直近で求めているのかを、この活動で引き出していきたいと考えているので、優先度が決まった暁にはぜひ、県に相談に乗っていただければと思っていますところ。また駅北東通り線につきましては、確かに駅前で完成しましたら、一時的に一番大きい道路になると思っています。その辺はパンクしないように今、交通量推計などをかけているところですので、満足いくような設計ができるのではと考えております。以上です。
為国会長	時間かかりますよね、インフラ系はどうしても。他にいかがでしょう。どんな形でも結構です。上村さんどうですか。
上村委員	短いスパンで将来、その姿を見せていただける計画というのは、自分も地元に住んでいますので、変化が見えるのはありがたいなと思いました。それと全てを新しくするのではなくて、現状を有効利用するっていうことも、計画の中に入れていただけるとありがたいのかなと思います。
為国会長	はい、ありがとうございます。
事務局	やはり全てを新しくするには時間もかかりますし、町に対する魅力や歴史は大事だと思っています。そういう意味で停車場線の駅に近い場所については、日常的なイベントは今のものを使うというのをなるべく考案していきたいと考えているので、今の停車場線の形を使いながら、ものになるかは地元の方との話し合いになりますが、ご理解いただくと助かります。
為国会長	他どうでしょうか？
宮下委員	9ページのところでイベントの日常化とあるんですけども、何かイベントって日常的にやっているとちょっとイベントっていう感じがしないのかなっていうのは素朴に思って、おそらく意図しているところは日常的に賑わっているっていうことを多分やりたいのかなと思って、イベントっていうのはその手段で、8ページにあるように持続可能なイベントの構築とかそういうことを多分おっしゃりたいのかなと思います。今のマーケットはすごくいい試みだと思うんですけど、毎日やると多分、今の1000何百人というのは、どんどん減ってきてしまうっていう可能性もなくもないと思うので、この辺ちょっと表現というか考えられてもいいのかなって思いました。以上です。
事務局	イベントの日常化のイメージはキッチンカー2台が集まるだけで、年に何回か行うお祭り規模のものとプラスアルファで、例えば事業者さんがやりたいからやるっていうようなミニイベントのような意味合いで言葉を使っています。確かに混同するような言い方なのでどういう言い方が望ましいかはこれから考えていきたいと思います。
為国会長	はい。他いかがでしょうか。
大田委員	ちょっと視点が外れちゃうかもしれないんですけど、中央大学の学生さんたちが来るということで、すごい楽しみだになってちょっと聞いてワクワクしたというか、外から学生さんが来る、若い人たちが来るって聞いた瞬間に、寄居が参考になるかわからないんですけど、さあどうやって接待しようか、どうやって楽しんで帰ってもらうか、どうやって記憶に植えつけようか、そしてまたどうやって町に来てもらおうかっていうことに力を注ぐ大人たちが多いので、ぜひ頑張ってください。こうやって何度も通ってくる人たちが増えてくると、滞在時間が増えると思うので出てくるのが、日帰りで帰れちゃうんですけど、泊まる場所がないですかとか、滞在できる場所がないですか、拠点欲しいですみたいな話があるんで、ぜひこのチャンスを生かしてくださいっていう、ちょっとご意見でした。
事務局	今回、三浦先生と話をされていて私から非常に無理なお願いをしたのは、授業で取り扱ってほしいという話をしました。やはり若い方の意見も聞けるチャンスですし、正直宣伝効果もあるんだろうなという思いがあって、おっしゃる通りで接待をしないといけないと思っています。実は授業

	はもう既に行われていて、今のところ皆さん真面目にワークショップの勉強をされているような学生で、1人2人とりあえず今は興味を持っていただいている方がいるようなので、来ていただけるかなというところで楽しみにしております。これが進んでいって、普通に毎年のように授業で取り扱ってもらって年中きてもらうような関係になれば、非常にいいなと思っています。滞る場所は考えていきたいと思います。
大田委員	結構、学生さんだと合宿感覚で8人以上とか20人以上とか、雑魚寝でもいいから泊まれる場所が欲しいってよく言われます。宿とかそういうのじゃなくてもいいとは言えないんですけど、やっぱりいきなり言われても準備できないので、何かいつ言われてもいいような提案ができるような方法ってホームステイみたいな形でもいいと思うんですけど、はい。そういう場所の提供ができたら関係性の広がりが出てくるのかなとも思っています。
為国会長	他にいかがですか。
並木委員	最初に確認をさせていただきたいと思うんですけども、停車場線のこのクランクの解消については県土整備事務所の方で、今年度、解消のための予算がついているということでしょうか。ちょっとその話をさせていただいていいですか。どういう検討をしているのか。
栗原委員	ご質問にお答え申し上げます。実は、勅使河原本庄線の方が予算化の方がされている状況でございまして、ただ、このクランクの状況を見ながらやらなくてはいけないのでちょっとそれはその同時進行で進めてるということでございます。ですので、神保原駅北未来ビジョンがある程度、地元で認知され、また地元の協力を得られるのだったら、県としてもここは通学路でもございしますので、このクランクについては進めていきたいということを、調整しながらやっていきたいということを考えております。以上です。
並木委員	もう一つ町の方のこの新しい道路ですね。駅北東通り線、これについて今年の取り組みというか、予算関係についてご説明いただけますか。
事務局	町としましては、こちらの駅北東通り線につきましては今年度、測量と設計の方をやらせていただいております。その中で地権者さんの方も今調べに入ってる状況ですのでこういった、低未利用地の活用に興味があるかというのも同時にあわせて、今お伺いを少しずつ進めているところでございます。
並木委員	はい、ありがとうございます。なぜこんな話をしているかといいますと、実はこの協議会は駅の北口の新しいまちづくりをしていこうということで始めて、これまでなかなか動いてこなかったと、どんどん衰退するばかり。何か活性化したいというのがあって、最初の頃は地権者の方々が何人かいらっしゃいましてこの協議会をやってるうちにいろんなことが動き始めた。駅舎等の関係、それからこういう道路の関係、そういうものが少しずつ動いてきた。それをきっかけにいろんなまちづくりをやって行こうという話がありまして、今の二つの話もこれ小さい動きかもしれませんが、具体的に動き始めている。こういうものを非常に大切にしながらまちづくりを進めていくってということは、一つのきっかけになるんだろうというふうに思います。もう一つ、これから話をしたいんですけども、ちょっと喋るかどうかわかりませんが、今回のこの話はですね、駅前通り線がクランクで、非常に危険だと。これを解消したい。もう一つ大きい話は、大規模ショッピングセンターの跡地が、そこにいろいろな集客施設が来るんじゃないかということがあってそれが一つの大きい要因になって、それに向けてまちづくりをどうやろうか、道路ももちろん作るためには駅前広場なので、駅前通りなので、駅のまちづくりと一緒に北口のまちづくりと一緒にやっていきたいと思います、という話で最初スタートしてきたというふうに今理解しております。しかしながらいろいろな状況が変わってきまして、商業施設の跡地については、多分白紙になってきた。そういう中で今、地域の活性化と、それから駅前通りの改修とこの二つのことを一緒にやってこうということだと思っております。ワークショップとローカル会議、実質、先程ご説明されましたけども大変多分苦労してるんだろうというふうに思います。ワークショップの方も、どういうまちづくりをやって行こうか、基本的には一つはトライアル跡地にこういう学校が来るんだとか、商業施設が来るんだってなれば、一つのそれを大きいそのインパクトとしてどう活用していくか、それにどう合わせてまちづくりをしていくかという話があったんだろうと思うんですけども、なかなか正直言って大きい課題がなくなってしまったということもあるんだと思うんですね。そういう面では一般論で言えないけどいろいろ地域の資源を探しながらまちづくりをどうやってやっていこうかっていうことだろうというふうに思います。そういう面でなかなかそこが具体的なものが見えなくてなかなか集約ができなかった。その結果としても駅前通りの路線も、どういう形でできるのかっていうのは、なかなか集約ができなかつ

た。それだけではないかもしれないですけどもこういう線形を決めるのはなかなか難しい話だろうと思うんですけども。そういうことですね、なかなか大きい一定の魅力もあるが何か見えなくなってしまうところはあると思うんですね。そういう面で今後10年間ぐらいの少し今いろいろ動いているものを少し手がかりとしながら、まちづくりを進めようということがこのまちづくりの方向性の話だろうと思いますので、方向性としてはそういうことで今動いているもの、またその近々でどういうものが動けるのかということをお示ししながら、まちづくりを議論していくことについては、方向性としては良いんだろうというふうには思います。

並木委員

もう一つが、6ページを見ていただくと、駅北東通り線の時間軸についてという話がありまして、これは今、町の方がこの道路整備を一生懸命やろうということなんですけども、この青い区域でこの低未利用地っていうのが書いてありまして、南側に大きいその工場みたいなものがあるんですけども、どうもここは未利用地らしくて、南口の駅前広場が5,000平米ぐらいあるらしいので、5,000平米よりもちょっと大きい土地があるんですけども、この未利用地があるので、こういうところに、いろんな企業誘致であったり、ここでは商業施設、そういうものも町の方に一生懸命やっていただいて、この道路と合わせてですね、まちづくりと一緒に進んでいくことが期待されるかなと思います。そういう面で一生懸命、頑張っていたきたいなというふうに思います。ちょっと全体の話になってしまって恐縮ですけど、全体の方向性としてはこれで良いのだろうというふうに思っております。以上です。

為国会長

はい、ありがとうございます。その他いかがですか。

為国会長

それでは質疑がないようですので、終了したいと思います。続きまして、次第の8.その他について、事務局から何かございますか。

事務局

その前に、RFA藤村先生につきまして所用がございまして、退席という形を取らせていただきます。よろしくお願いします。

8.その他

(1) 神保原駅前通り七夕イベントについて

(事務局から説明)

事務局

事務局から、その他の説明をさせていただきます。実は先程、お話をさせていただきましたマーケットというものをやっているところから、地元の有志の方がプレイヤーのようになっていただけたつありまして、停車場線沿いに七夕の飾り付けを行った、七夕プロジェクトを今進めているというふうに伺っております。8月10日から12日に、地元の小学生に書いていただいた短冊を飾るというお話でまさに商店街の活動のようなものが行われておりまして、当課としてはマーケットでお呼びさせていただいている事業者さんのうち、ご理解のある方を何店舗か呼ばせていただいて、相乗りするような形で人をさらに呼べないかなというのを、地元の有志の方たちとお話し合いを進めています。実現するかはまだわかりませんが、有志の方でやっていただけるイベントを行いながら、民間事業者さんがそれに伴って好きに店出たしていただけるような、かつ人が来れば地元の商店の方にも人が来るということで、来年度からいろいろ企画していただけるように頑張っていきたいという一つの事例を今日ご報告させていただきました。また、七夕の飾り付け等につきましては全て道路の外での活動になり交通規制なども考えられるので、今後は警察署さんや道路管理者の本庄県土さんにご協力をいただきながら、こういった活動ができないかというのを、来年度に向けてもう少し模索していきたいというふうに考えています。以上報告になります。

為国会長

はい、皆さんの方から何かございますか。

為国会長

それでは以上で本日の案件は全て終了しました。ご協力ありがとうございました。

事務局

為国会長ありがとうございました。本日は長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。最後に閉会の言葉を並木副会長からよろしくお願いします。

9.閉会

(並木副会長から閉会のあいさつ)

